

IVRとは

インターベンショナル・ラジオロジー（Interventional Radiology）の略であり
X線装置、超音波、CTなどを用い画像診断しながら、体内に針やカテーテルなどの細い管を入れて病気を治す治療のことです。「カテーテル治療」や「血管内治療」とも呼ばれています。

IVRの利点

局所麻酔で行われるため、全身麻酔の外科的手術を必要としないので低侵襲であること。
また緊急対応が可能であり、全身状態の厳しい患者さんにも施行することができること。
入院期間が短いなど、患者さんへの負担が少なく、迅速かつ正確に病気の治療ができることがあげられます。

IVRには、「**血管系IVR**」と「**非血管系IVR**」があります。
ここでは血管系IVRについて説明します。

血管系IVRの代表的なもの

1. 血管を塞栓する塞栓術

腫瘍性病変、出血、血管性病変などに対して血管を塞栓する治療です。（図1）

塞栓物質にはゼラチン製剤、金属コイル、液体塞栓物質などがあります。



図1

2. 血管を拡張する血管形成術

狭窄、閉塞した血管を特殊な風船（バルーンカテーテル）を膨らませる事により、血管を拡張する治療です。（図2）

また再び血管が狭窄するのを防ぐためにステントという金属のメッシュ管を挿入するステント留置術があります。

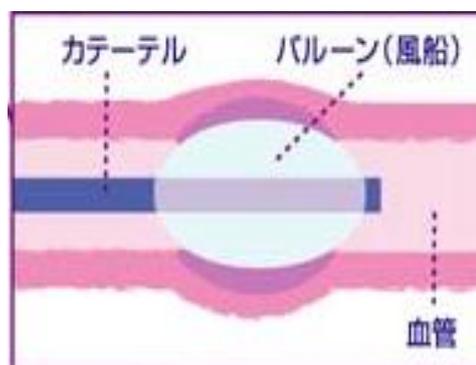


図2

3. 薬剤を動脈注入する動注療法

癌を栄養している動脈に抗がん剤を直接注入する動注化学療法、（図3）

動脈閉塞に対して血栓溶解剤を注入する血栓溶解療法、出血している血管に血管収縮剤を注入する止血療法などがあります。

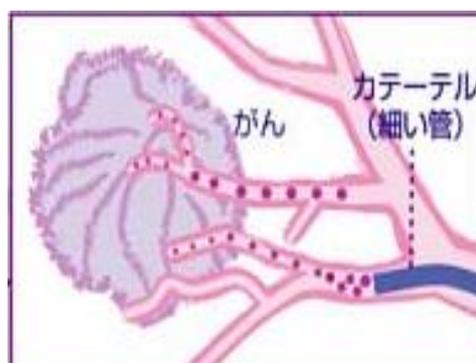


図3

4. 血管内の異物除去術

IVRはここ数年の器具の目覚しい開発と技術的進歩によって、適応疾患はさらに拡大し、治療成績も向上しています。